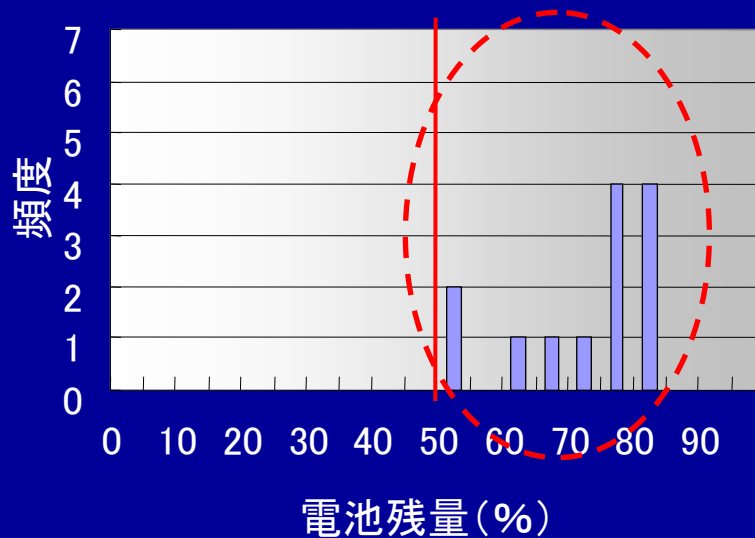


急速充電器の効果

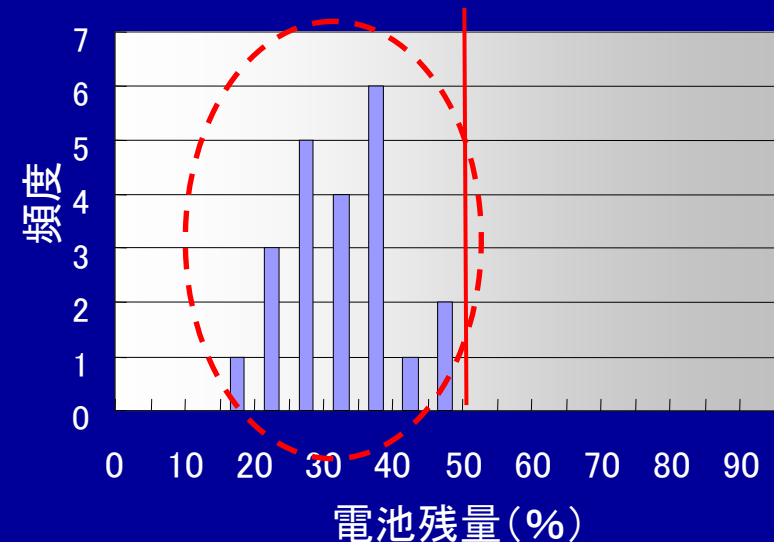
事務所に戻ってきたEVの電池残量の分布状況

2007年10月



電池残量は50%以上

2008年7月

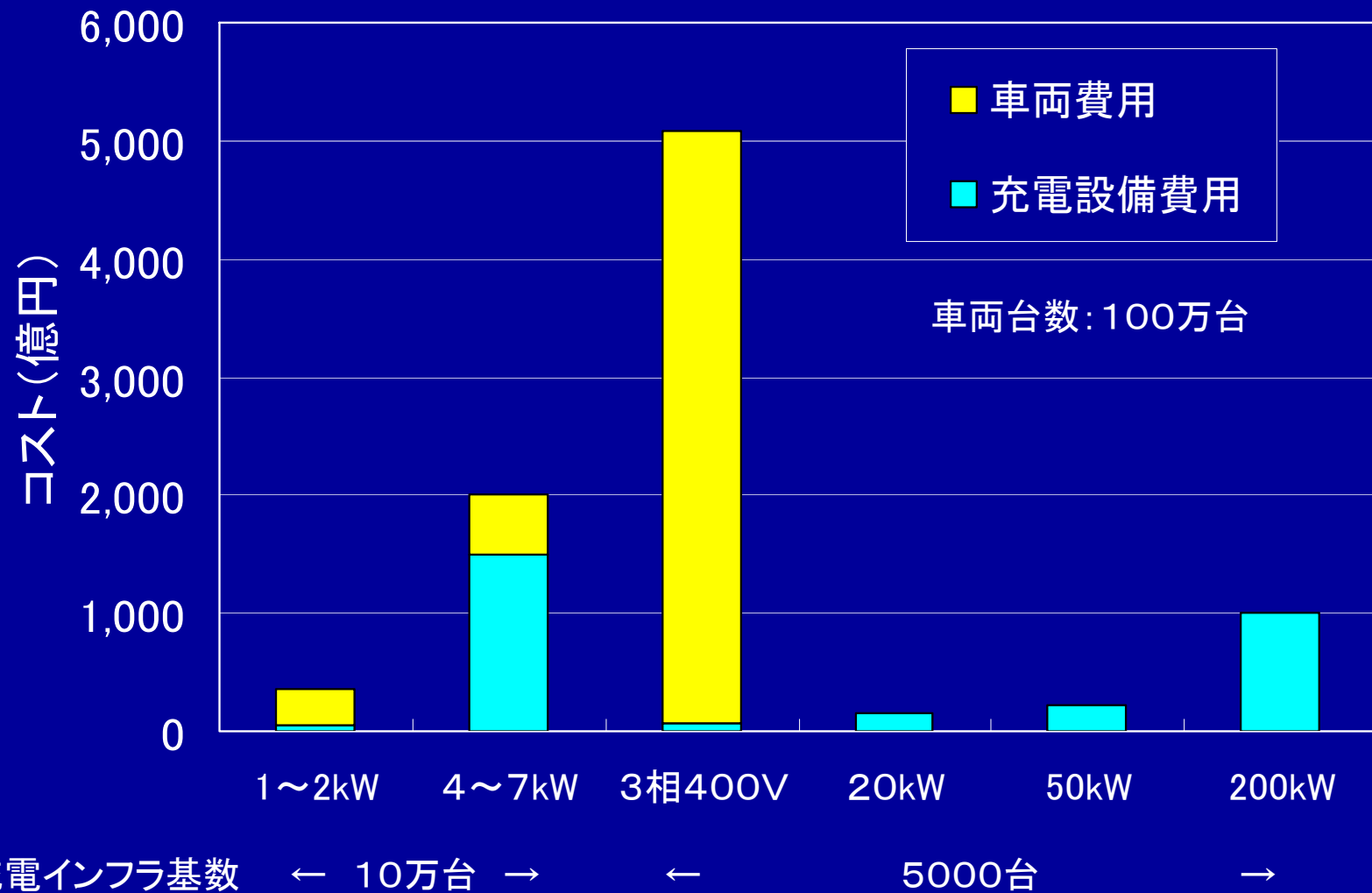


電池残量は50%を下回る

急速
充電器
の増設

必要になればいつでも充電できるという安心感
⇒ 電池が持つ容量を有効に利用できるようになる
実使用頻度が低いので、必要な設置台数も少ない

充電インフラの推定費用



1. これまでの取り組みから学ぶこと
2. EV普及のための方針
3. 急速充電器がもたらす効果
4. 誰が設置するのか？

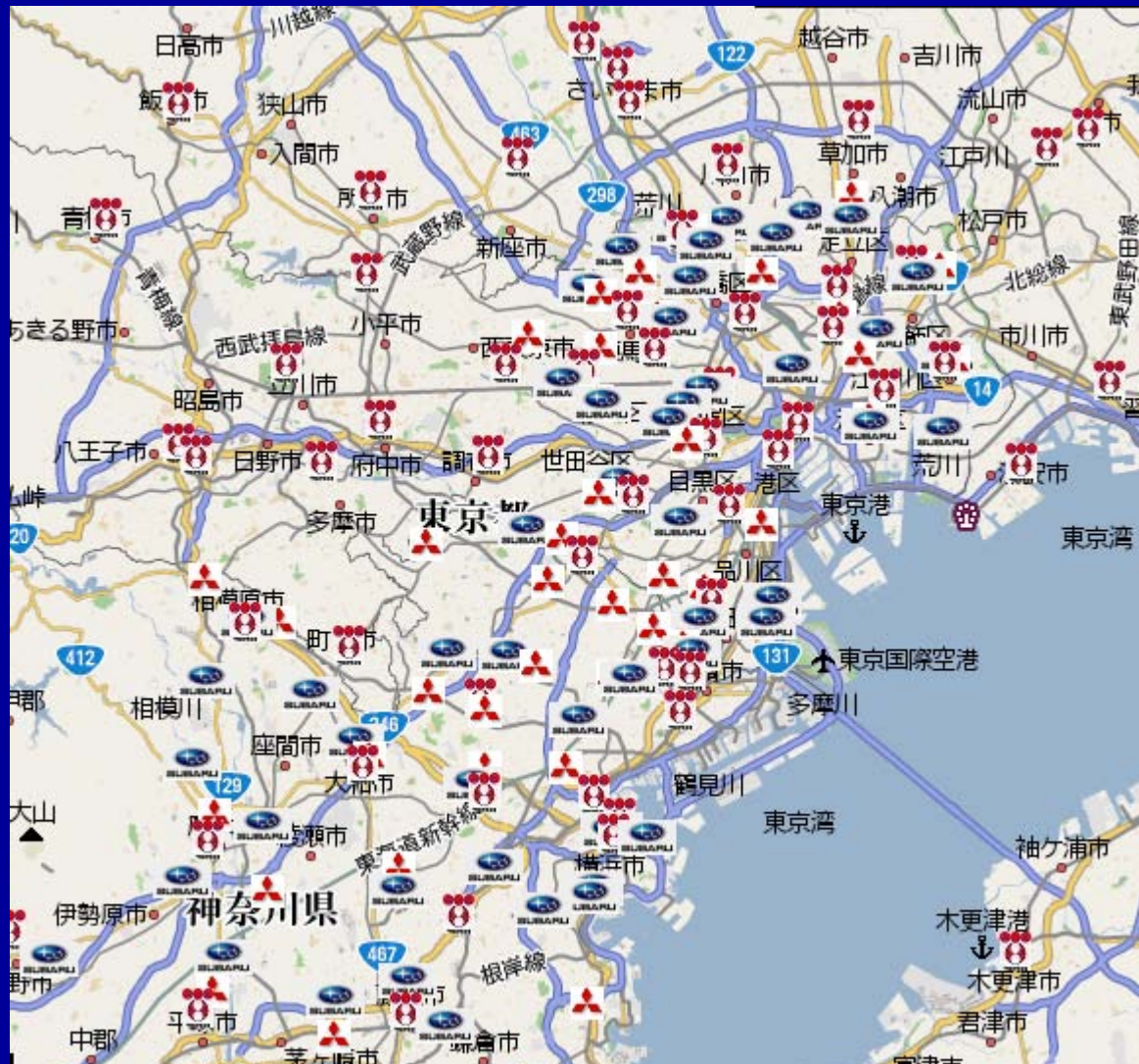
急速充電器の製品化・販売状況

26

				
(株) ハセツテク	(株) 高岳製作所	(株) 高砂製作所	テンパール工業 (株)	(株) キューキ
350万円	350万円	350万円	350万円	440万円

2009年に5社が販売開始

最初はE Vを作る人と使う人が設置



自分たち以外のパートナーの見当がつかなかった



県庁本庁舎

2007年11月設置

小田原合同庁舎

2008年11月設置

平塚合同庁舎

2008年11月設置

産業技術総合研究所

2009年1月設置



環境問題への取り組みの先導役として

三菱地所 ビル地下駐車場

29



新丸ビル

2008年9月設置



丸の内パークビル

2009年4月設置



横浜ランドマークタ

ワー

2009年9月設置

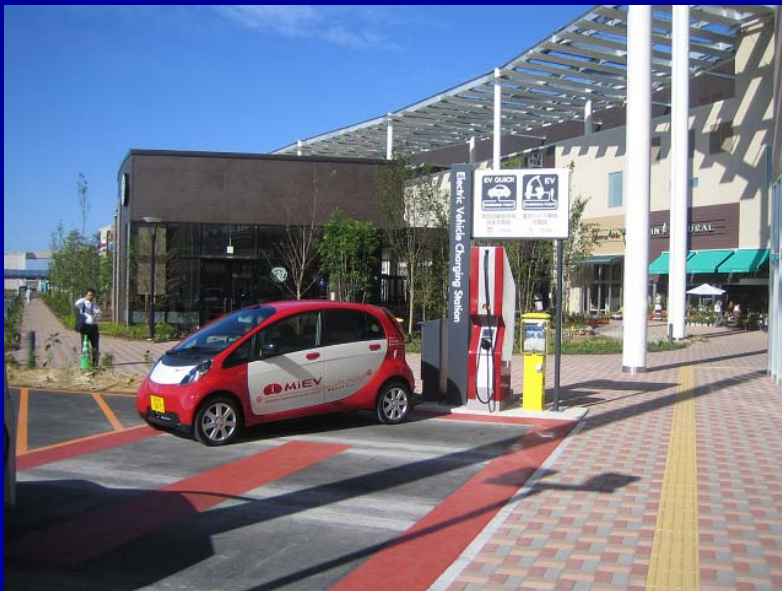
環境との共生を目指した街作りの一環として

イオンモール 越谷レイクタウン

30



2008年9月設置



車の来場が多い業態として
環境に配慮した新しい
モールの形を提案



西新宿第四駐車場



銀座鍛冶橋駐車場 2008年9月設置

西新宿第四駐車場 2009年12月設置

公共性の高い駐車場の役割
として



平和島PA	2008年10月設置
大黒埠頭PA	2008年9月設置
八潮PA	2009年3月設置
市川PA	2009年3月設置

道路沿線の環境改善への取り組みとして



2009年3月設置



EVは品川キャンパスとの間の移動用に利用

地域の環境活動への協力として